

金属テープシール工法

ガス導管現地腐食補修材料
材料仕様書及び施工要領書

平成5年11月

株式会社 但馬 物産

早川ゴム 株式会社

1. 適用範囲

本工法は低圧支管、供給管の管体腐食及び、ネジ継ぎ手部等からのガス漏れを修理するものであり、金属テープシールを用いる場合に適用し、その適用範囲は次の通りとする。

- (1) 適用口径は20A、25A、32A、40A、50A、80Aとする。
- (2) 管体腐食による漏洩箇所。
- (3) ネジ継手部、メカニカルソケット、ベント等継ぎ手漏洩箇所。
- (4) その他、直管、曲管の塗覆装の劣化のある管体の防食処理。

2. 使用材料

2-1 金属テープ

腐食部の補修材料として用いる。

品名	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)
金属テープ	1.1	50	5000

2-2 薄膜テープ

腐食面の凹凸修正、金属テープの接着下地処理用として用いる。

品名	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)
薄膜テープ	0.5	50	300

2-3 サンタックルーフ6.7テープ

鋼管外面に発生した凹凸面の修正及び金属テープの保護用、バイパス孔玉穴孔、結び継手部、露出部の現地被覆装用の防食材として用いる。

品名	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (m)
6.7テープ	1.3	50 100	5

2-4 保護テープ（防食グリーンテープ）

金属テープ、サンタックルーフ6.7テープの保護及び接着補強して用いる。

品名	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (m)
保護テープ	0.4	50	10

2-5 サンタックボンドPB-50

腐食管体外面の下地処理剤として用いる。

3 使用工具

- (1) 皮ハギヘラ
- (2) ワイヤブラシ
- (3) ウェス
- (4) Wローラー、ステッチローラー、ペンチローラー
- (5) ハサミ、カッターナイフ
- (6) 刷毛
- (7) スケール

4 修理作業

4-1 掘方

漏洩箇所にテープ巻が出来るように少なくとも長さは漏洩箇所の前30～40cm程度、幅は管面より30cm程度、深さは20cm程度の掘方を行う。

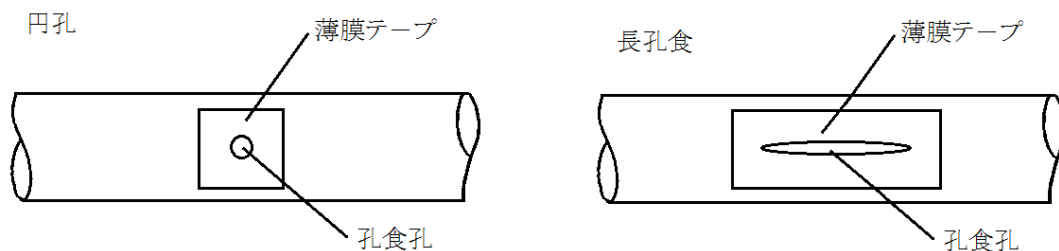
4-2 漏洩箇所の前処理

漏洩部の孔食孔をパテ、テープ等で仮止めする。

漏洩箇所の前20cmくらいをワイヤブラシ等で、管に付着している防食テープ、土砂、あらい錆などを除去し管はだをだす。水分は乾いたウェスを用いて拭き取る。

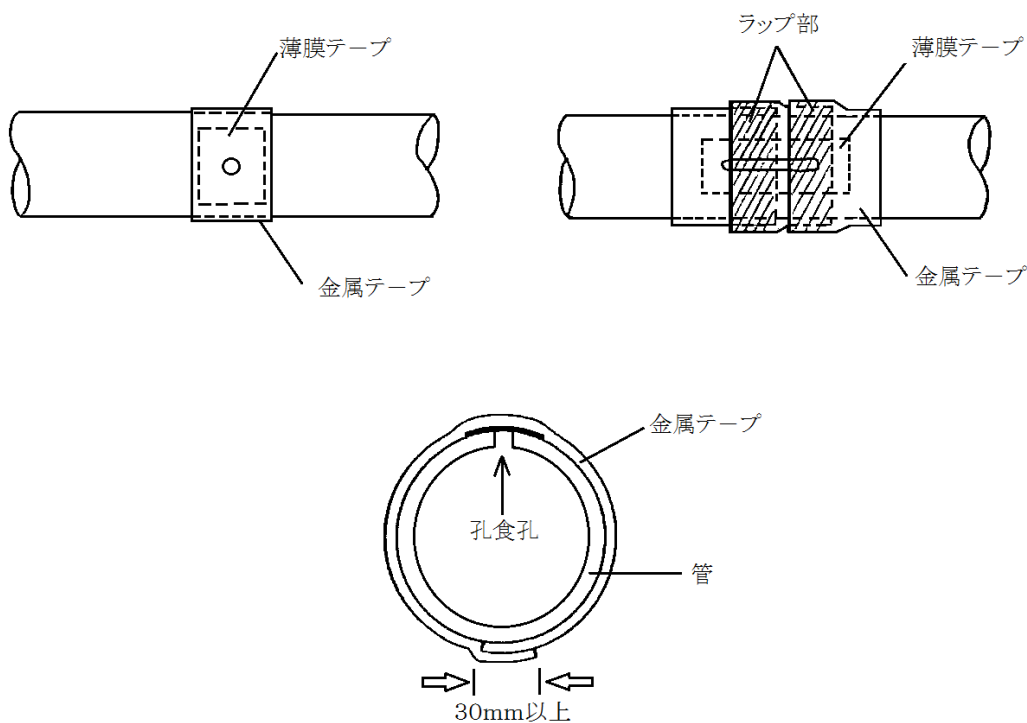
4-3 薄膜テープの貼付け

金属テープを巻付けを行う前に薄膜テープを孔食孔にパテを取り除き薄膜テープを貼る。テープの長さは、孔食箇所の接着しろが、1cm以上になるように決定する。接着しろが1cm以上とれない場合は、テープを重ね使用する。重ねしろは1cm以上とする。



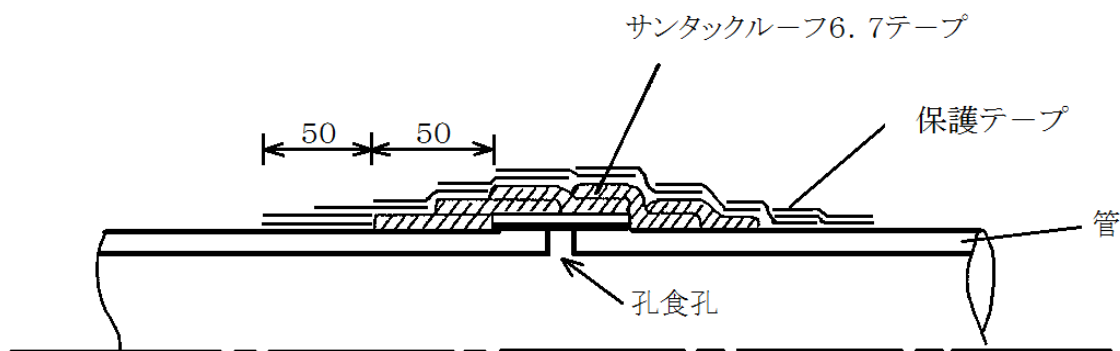
4-4 金属テープの巻付け

薄膜テープの上に金属テープをタバコ巻で1回巻き付ける。金属テープのラップ部は、孔食孔の反対側で行いラップ幅は30mm以上とする。孔食孔が大きい場合は、金属テープをタバコ巻で重ね巻する。重ね幅は10mm以上とする。金属テープの巻付けが終わったら孔食箇所からラップ部に向かってWローラー、ペンチローラーで入念に圧着していく。



4-5 サンタックルーフ6.7テープの巻付け

サンタックルーフ6.7を金属テープの端の50mmくらい手前よりハーフラップで、少し張力を加えながら巻き付ける。金属テープを越してから50mmくらいの所まで巻き、ハサミ又はカッターナイフ等を用いて裁断する。



(サンタックルーフ6.7テープ巻き+保護テープ巻き)

4-6 保護テープの巻付け

保護テープをサンタックルーフ6.7テープの端から50mmくらい手前から、1回補強巻きをしたのち、テープに張力を加え、10%~20%の伸びをかけ、ハーフラップで巻付けていく。

サンタックルーフ6.7テープ全面を覆うようにして巻き、サンタックルーフ6.7テープのもう一方の端から50mmくらいの所まで巻き、ハサミ、又はカッターナイフ等で裁断する。

4-7 漏洩検査

テープ補修した箇所全面を石鹼水又は検知器で漏洩検査を行う。

4-8 保護テープ巻き

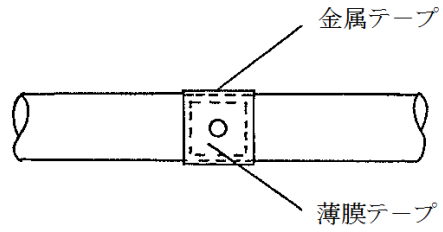
保護テープ巻付け完了後、管肌が露出した部分は防食テープ巻きし、防食措置を施す。

4-9 埋戻し

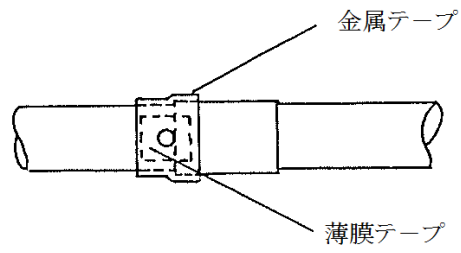
補修した箇所周辺に栗石等が混入しないよう配慮しながら埋め戻す。

5.テープ巻き要領書

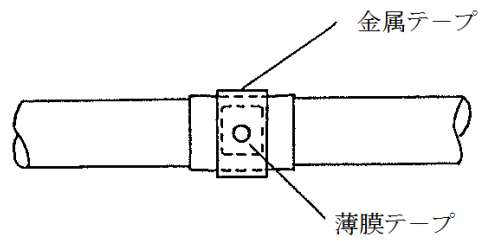
直管部



ソケット継手ネジ部



ソケット継手本体部



エルボ本体部

